

令和元年度第7回新潟市清掃審議会会議概要

開催日時	令和元年9月30日（月）午後3時～午後4時10分	
会 場	新潟市役所 本館 3階 対策室1	
出席者	出席委員	山賀会長、西條委員、住吉委員、関谷委員、阿部委員、 井下田委員、石井委員、小林委員、鶴巻委員 計9名 （欠席 中澤副会長、西海委員、石本委員、鈴木委員、 星島委員）
	事務局	環境部長、循環社会推進課長、廃棄物対策課長 ほか
主な議事	<p>1 開会</p> <p>2 議題 新潟市一般廃棄物処理基本計画の改定等について（審議）</p> <p>3 その他</p> <p>4 閉会</p>	
	<p><審議の進め方></p> <p>それぞれの議題について資料に基づき事務局が説明を行った後、委員からの意見・質問を受け審議を進めた。</p>	

主な議題

(主な質問・意見等)

新潟市一般廃棄物処理基本計画の改定等について（審議）

- 答申書（案）の中で、文末に「必要がある」という表現がいくつか見られる。市民からするとどのような解釈にすればよいか。
- 市～ 今後、一般廃棄物処理基本計画をつくるという前提にたった必要性という意味で「必要がある」と記載している。
- ごみ処理手数料の使途の中で「新たな柱」という表現の趣旨を確認したい。
- 市～ これからの手数料の使い道として、既存の3本柱に加えて新たな技術を使っていくことや、将来への投資というやり方で取り組んでいく必要があるという意見をまとめ「新たな柱」と表現した。
- 既存の3本柱にかかる取り組みであるならば、言い回しを変えて、「次世代へ繋がる未来投資的な施策をより積極的に取り組む」というような表現ではどうか。
- 市～ 「新たな柱」とするのがふさわしくないということであれば検討したい。
- 新たな柱の考え方は明記し、計画に入れていただきたい。
- 市～ 「新たな柱」として検討してほしいという意味で答申書（案）に記載している。「新たな柱と表現するのがふさわしくない」ということでないならば残していただきたい。
- このままの表現で答申をする。

その他

- 廃棄物処理は生活の中に密着している。市民が、健康的で気持ちよく暮らしていけるその状態を保つことが重要なことだと思う。力の弱い高齢者や、子供たちが参画できるような仕組みをつくとよいと思う。
- 日本は海外に比べ、プラスチック製品が多いのが特徴的である。私たち市民がプラスチック製品を断ることが重要であり、そのためには啓発が必要になる。清掃審議会委員をやって初めて分かることが多く、市の施策をPRしていくのが大事だと思う。
- 食品ロスの数値目標・指標を設定していくことをぜひお願いしたい。環境教育もこれから大事なことでため積極的に取り組んでいただきたい。災害対策もスムーズに対応できるよう検討していただきたい。
- リサイクル率を高めることが大切であり、そのためには分別が必要

	<p>不可欠である。市から啓発を何回もしていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 分別がちゃんとできるよう何回もPRしないと、忘れてしまうこともあると思うので、啓発をきめ細かにできればと思う。 ○ 子供から高齢者までどの世代にも、廃棄物に関する施策が伝わるようになれば良いと思う。 ○ ごみ減量に関する様々な施策を行っているが、なかなか市民には伝わりにくい状況である。自治会での古紙回収でごみ減量のPRがないので、何かPRをしてほしい。クリーンにいがた推進員の存在を知っていただいで一緒に行動するということができたら良いと思う。 ○ 経済は産業に注目してしまうことが多いが、生活の最終処理である廃棄物をいかに資源という視点で見ることが大事である。そのような仕組みに変えないと仕組みを変えた都市との格差が生まれ、都市間格差となる。子供たちが将来も安心して新潟市に住めるような市にすることが大切である。 ○ 審議会で出た意見を計画に反映させていただきたい。劇的に時代が変わるなか、状況に応じてフレキシブルな対応が可能なようにしていただきたい。
傍聴者	1名